

令和元年度子ども議会

開催日 令和元年(2019年) 8月9日(金)	会議時間	開会 午前 10時00分 閉会 午後 12時10分
会議場所 ニセコ町役場 2階 議場	記録者 学校教育課学校教育係 主事 木村 美幸	
出席者：片山町長、林副町長、菊地教育長、猪狩議会議長、阿部総務課長、馬淵総務係長、青田防災専門官、山本企画環境課長、柏木企画環境課参事、芳賀税務課長、中村町民生活課長、桜井保健福祉課長、中川農政課長、石山国営農地再編推進室長、高橋商工観光課参事、高瀬建設課長、石山上下水道課長、加藤出納室長、佐竹議会事務局長、前原学校教育課長、大久保町民学習係長(町民学習課長代理)、酒井幼児センター長、富永給食センター長		
広報：四條囑託職員		
教委：学校教育係 佐々木係長、木村主事、五十嵐囑託職員		
傍聴：13名(内 3名教育委員：日野浦委員、越湖委員、萬谷委員)		

会議内容

《開会行事》

1. ニセコ町校長会会長あいさつ(ニセコ小学校飯田校長)

別の用務により、急遽欠席したため省略。

2. ニセコ町議会議長あいさつ(猪狩議長)

みなさんおはようございます。昨日も天気が悪くてどうなるかと思いましたが、みなさんの行いが良く朝から晴れて、今日は素晴らしい子ども議会日和になりましたことをうれしく思います。私も、この日をずっと楽しみにしていました。我々がやっている議会とはおそらく違う視点から、または違う角度からニセコ町を見ていると思うので、それを本物の議会でも勉強させて頂きたい。そして、みなさんが大きくなって社会に出て世界をまたにかけるようになった時、またニセコに帰ってきて、片山町長のような大人になるか、議会議員になっていただき、このニセコをなんとか発展させてほしい。短い時間ではあるが、忌憚のない意見を述べてください。

3. 子ども議会議長・副議長の紹介

議長：ニセコ小学校6年 コンスタンティン さゆりリナ

副議長：ニセコ中学校2年 田中 美月

《子ども議会本会議》

1. 開会宣言

2. 会期の決定

3. 一般質問

(1) ニセコ中学校2年 田中美月 「学校用のかばんについて」

田中議員：中学校の生徒達のかばんが重たいので、次の日に使う教科書や普段あまり使わない教科書を学校に置いていくという改善をしているが、かばんが重たい原因は、教科書だけでなくかばんも重たいのではないかと考える。そこで提案するのが「学校用のかばんを軽いものに変更できないか」ということである。学校の指定を無くして、自分が軽いというかばんにするという方法や、もし学校指定のかばんとするのであれば、軽い素材でニ

セコのオリジナルデザインにして発注するなどはできないか。デザインも私たち自身が使うので、生徒でデザインの募集をして考えてもらうというのも良いと思う。

学校教育課長：現在、ニセコ中学校では、使用するカバンを指定している。中学生のカバンといえ
ば、古くから革の学生カバン、肩掛けカバンなどが一般的であったが、これらの製
品は片側にのみ重さがかかるなど健康上よくないと考えられるようになり、反射材
の貼り付けや両手が使えることなどの安全面にも配慮して、現在の指定カバンを使
うようになった。また、各家庭への経済的な負担を軽くすることも考えられている。
今年度、学校では指定カバンが変更になった。これは、これまで製造していた事業
者がカバンの製造を取りやめたため、カバンの大きさなどの規格はこれまでとほ
ぼ同じものを新たに指定している。

かばんはみなさんが毎日使うものですから、あまりに重たい状況は、私も良いこ
とではないと考える。重くしないためには何ができるのか、学校とも相談しながら、
検討していきたいと思う。

また、カバンの指定は学校が行っているものですが、毎日使っているのはみなさん
です。学校内で多くの生徒により、クラスや生徒会などで話し合い、その意見を学
校に伝えてはいかがでしょうか。学校においても生徒による自治は大切なことと思
う。

クリナ議長：質問について再質問はあるか。

田中議員：ありません。

菊地教育長：重いカバンに着目したことは、とてもいい提案だと思う。いま全国的にも、子供たち
の背負うカバンが重すぎるのではないかと、成長する身体に影響があるのではないかと
日々問題にされている。一方、教科書は年々大きく厚くなっている。そのギャップの対
策が求められているところである。医学界の研究も進んでいて、医学的には自分の体重
の約 10 パーセントの重さが適正ではないかと言われている。実際、自分たちの背負う
カバンがどれくらいなのか計ってみてはいかがか。おそらくカバンの重さが 5~6 キロ
あるかと思う。その場合、自分の身体に対して重いのではないかと思う。教育委員会
でも、各学校の校長と昨年から話し合いを重ねて、学校から持ち帰る必要のないものを学
校に置くことなどを学校で取り組んでもらっている。田中議員の言うように、普段使わ
ないものは学校に置いていく、その上でカバンの素材を変えたらどうかという提案は目
の付け所が、素晴らしい。今まで、教科書のことばかりに目が行っていたが、カバンに
目を付けたところが良かった。カバンについては、学校教育課長から答弁があったよ
うに、学校指定なのでカバンの素材を変えたり、自由にはいかがか等を、学校の中
の学級会や生徒会で問題にしたり、あるいは先生に相談したりして自分たちにとって良い
環境を作ってみてはいかがか。教育委員会でも、各学校の先生方と相談し、より良い方
向にいくよう考えていく。

クリナ議長：よろしいか。

田中議員：よろしいです。ご回答ありがとうございました。

(2) ニセコ中学校1年 小林美夕「ニセコ町の高齢化と介護施設の利用状態について」

小林議員：ニセコ町の統計資料を見て思ったことがあるので質問する。ニセコ町の人口と産業構造の年齢別男女別人口についてのページに「高齢化が進むものと思われる。」という一文があった。近い将来、どれほど高齢化が進んでしまうのか。また、現在の高齢化の状態について、ニセコ町の状況を教えていただきたい。また、以前ニュースで、保育園などでの人手不足や待機児童問題について放送していた。高齢者施設であるニセコ町のハイツやデイサービスセンターではそのようなことが無いのかも教えてもらいたい。このことは、デイサービスセンターに勤務している母から何度か話を聞き、また実際に行って、利用者さんと会話したことで、高齢化について興味を持つことができた。子どもと高齢者が交流する機会、例えば、福祉まつりのような行事をもっと増やしてはどうか。

保健福祉課長：ニセコ町の、平成31年4月末現在の高齢化率、28.5パーセントとなっている。また、ニセコ町自治創性総合戦略の計画書の中に、将来の人口の推計が出ている。これによると、2020年に28.9パーセント2025年には29.6パーセント、2060年にはなんと37.1パーセントと高齢化率は伸びていく推計になっている。次にニセコ町の介護施設について、社会福祉法人ニセコ福祉会で、特別養護老人ホームニセコハイツ、デイサービスセンター、高齢者グループホーム、居宅介護支援事業所の4つを運営している。職員の状況と待機の状況について、この4つの施設の運営を統括する事務職員が6名いる。また、ニセコハイツでは利用定員50人に対して、利用者は48人。待機者なし。職員の数は、介護員20人、看護師2人で定数を確保している。次にデイサービスセンターでは、職員8人の定数で運営。デイサービスの利用者は、7月の平均利用者数は18.2人で、定数の30人には達していないので待機者はいない。高齢者グループホームについて、18人利用可能な施設で現在の利用者数は14人で待機者なし。従事する職員数は13人。人手不足の面では、ニセコハイツとデイサービスの調理員が若干不足している。次に、福祉まつり等の交流事業を増やしてはという意見だが、あまり行事が多いと高齢者が疲れてしまうという課題と、インフルエンザが流行る時期には感染症対策が必要である。そして、現在は介護する人の数が限られている、といういくつかの課題がある。また、ニセコ福祉会では全ての施設で、花火大会、お花見、お誕生日会、流しそうめん、音楽のイベント等、利用者が喜ぶ行事も多数行っていると聞いている。

クリナ議長：質問について再質問はあるか。

小林議員：まず、ニセコハイツの定員が50名で、現在利用している人の数が48名ということだが、近い将来高齢化が進むのであれば、このままいって定員数に達してしまった場合、ニセコハイツはどうなるのかということ。また、高齢者と子どもが交流する機会について、あまり多くの機会を作ると高齢者が疲れてしまうということだが、それなら私たちの方から施設にお邪魔することはできないかと思う。

保健福祉課長：一点目、ハイツの定員数について。今現在 50 名の定員に対して 48 名で今段階は待機者がいない。しかしこの先、高齢者が増えていけば対策が必要になるということは、私共でも危惧している。そこで、今ハイツ自体の施設の老朽化が進んでいる状況があり、その施設の老朽化と合わせて、例えばハイツの定員数を増やす、あるいは別の施設を作る、あるいは広域で倶知安・蘭越・真狩などの他の町と連携して高齢者の対策を考える等、いろんなことが検討できるので、それらは今後の検討課題であると捉えている。二点目の交流の機会を増やして、皆さんがハイツに行ったらどうかについて。ハイツの方も受け入れについては非常に良いことだと思う。しかし、疲れるということについては、例えば月曜日にイベントがあり、火曜日にニセコの子供たちが遊びに来る、水曜日にお誕生日会がある、ということだと高齢者はその度に緊張して、疲れてくると思う。そのため、実際にハイツを運営している人達と相談しながら、こういった機会を増やしていくのが一番いい方法だと考えられる。ぜひ、積極的にまず相談していただければいいと思う。

クリナ議長：質問について再質問はあるか。

小林議員：以前、学童や幼稚園で、何度か行事という形でハイツやデイサービスにお邪魔したことがあるが、今もそういった取り組みをしているか。

林副町長：質問ありがとうございます。再質問も 2 回目ということで、3 回目も期待している。2 回目の質問の時、将来の高齢化に向けてニセコハイツをより大きくしたり、いい方向にしたり、という意見はその通りだと思う。課長からの答弁でもあったように、そういう方向にすべく調査をしている。私が入る年齢の頃には間に合うかもしれないので、なんとか早くできればいいかなと思っている。また、小林議員も小さい頃、ニセコハイツに行かれたのか、実はこれからニセコ町でもみなさんが触れ合える祭りとして福祉祭りが 8 月 31 日に町民センターである。そこには、ニセコ町の高齢者の他にニセコハイツやグループホームからも参加する予定である。また、職員も来るので色々な面で触れ合える機会があるので、ぜひ声をかけていただければありがたい。また 8 月 25 日に、狩太神社の祭りがある。その時、商工会婦人部の方が踊りを踊る。それもニセコハイツに行って、皆さんの前で踊って楽しんでもらう。その時も、高齢者の皆さんはとっても喜んでいる。9 月 11 日には、ニセコハイツの敬老会がある。その場所には、幼児センターから子供たちが来て遊戯をしたり、歌ったり、ニセコハイツに入所している方々との、そういった交流事業をしている。いずれにしても、高齢者との交流に関して小林議員のいいアイデアがあればぜひ、このあとみなさんで子ども議会の色々な話し合いができると思うので、こういう事したらニセコハイツの人と交流できる等の意見があれば相談いただきたい。先程の桜井課長はすごく優しいので、いろんな意見を聞いて楽しく回答してくると思うので、ぜひそのアイデアをお待ちしている。今回、統計資料を見ての質問だが、ニセコ町の統計資料を見ていただきありがとうございます。これからも、色々な統計資料や、もっと知りたい今年の仕事等、色々なニセコ町の事が書いてある中で聞いてみたいことがあれば、子ども議会に限らず役場に相談に来て頂ければありがたい。

クリナ議長：質問について再質問はあるか。

小林議員：ありません。ご回答ありがとうございました。

(3) ニセコ小学校5年 大道ひなた 「陸上グラウンドの整備について」

大道議員：私は、陸上をやっているが、陸上グラウンドは砂で、走り終わった後、足が痛いし、すべってとても走りにくい。ですので、ゴム製のグラウンドにしてほしい。もしゴム製のグラウンドで練習ができたなら、スパイクを履いて練習をする時に、いちいちスパイクを替えなくても良くなるし、みんな思いきり走った後も地面をならさなくて良くなる。また、良い成績で、全道や上の大会に出ることができたときも、練習環境が同じならリラックスして挑むことができる。

町民学習係長：日頃の陸上少年団活動の練習、お疲れ様です。スポーツの最高の夢舞台である2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催がすぐそこに近づいてきています。特に大道議員をはじめ、スポーツ活動をしている方々は楽しみではないだろうか。大道議員が日頃練習しているニセコ町陸上競技場は一周300メートル、土のトラックコースが7コースある、町の歴史ある体育施設である。大道議員より要望のあった、近代的な全天候型には当然及ばないが、多くの先輩達が練習に汗を流し、全道大会等で優秀な成績を収めた原点となっている。土のグラウンドは、選手の足腰にやさしく、全天候型は日常的に使用する上では、体への負担が蓄積する一面があると聞いている。この度の意見を参考に、より良い環境でスポーツができるよう陸上競技場をはじめ、体育施設の整備を進めていきたいと思う。大道議員にはご不便をかけるが、現状の施設で練習に励んで頂き競技大会で好成績を挙げられるよう期待している。

クリナ議長：質問について再質問はあるか。

大道議員：ありません。

菊地教育長：大道議員も日頃から陸上少年団で頑張っていることと思う。大道議員は今5年生で、今年も数名が全道大会で頑張ってきたという報告がきている。来年6年生なので、全道大会に出られるよう頑張ってもらいたい。今の質問の中で全天候型グラウンドに変えてほしいという事で、全天候型グラウンドと土のグラウンドの違いは、土だと少しずつ掘られてグラウンドの状態が悪くなったり、雨が降るとぐじゃぐじゃになったりする。その点、全天候型のウレタン舗装と言われるゴムのトラックは雨が降っても条件が変わらず、非常に近代型の競技場で、あちこちに作られている。近場では、小樽に競技場があり大道議員も小樽の大会に出たことがあるのではないかと。全道大会などの大きな大会は全て、全天候型のグラウンドでやるので、大道議員の言うように大会を同じコンディションで普段から練習していると、リラックスして臨めていい等、大変よくわかる。一方で、全天候型の硬いグラウンドで成長期のみなさんが毎日練習すると、反発する力が強く膝や腰に影響があるとも言われている。だから、毎回全天候型グラウンドで練習することは必ずしも、小・中学生には良いとは言えないと科学的に言われている。とはいえ、大

会前や週に一回、状況のいい場所で練習するという事は非常によくわかる。全部を全天候型にするのではなく、例えば一部の幅跳びの走路を変更する等できないか考えている。時間はかかるが、そういう環境を作りながらみなさんにとっていいグラウンドにしていきたいと思っている。尚、先程の話で、大人も必ずしも毎日全天候型で練習しているのではない。例えば長距離の選手は、あえてデコボコのコースを選んで走ったり、柔らかい芝を走ったりする。デコボコのコースは、体の中心を鍛える練習になる。また柔らかい芝の上での練習は、膝や腰への負担が少ない。だから、例えばグラウンドの中の草の部分で走る練習や、あえて坂道で練習する等、今ある条件を利用しながら練習していくと記録が伸びることもあるので、参考にしながら練習に取り組んでもらいたい。私も陸上をやっていた。林副町長も陸上をやっていた。みなさんが日ごろ練習している、あの土のグラウンドで大会にも出たのでとても思い出深い練習場である。また、最後にレースが終わったあと一礼をする様子を見たことがあるかと思います。礼をしてそのコースを去る。テレビを見ると、一流選手もしている。やはり自分の走ったコースに感謝を込めて「ありがとうございました」と礼をしてコースを出る。また、地面をならすということも同じで、皆さんが一生懸命練習して使ったグラウンドを、また明日同じ条件で練習ができるようにと、そしてグラウンドへの感謝も込めて取り組んでいてもらいたい。大道議員の今後の活躍を祈って、私共も条件整備に努めて参りたい。

クリナ議長：よろしいか。

大道議員：よろしいです。ご回答ありがとうございました。

(4) ニセコ小学校5年 コンスタンティン蓮音チェザル「ちびっこ広場の整備について」

蓮音議員：ちびっこ広場の公園を小さい子やお年寄りにも使いやすい公園にしてほしい。理由は、小学生やいろんな子どもが使うので、ブランコで遊ぶ時、小さい子は安全に使えなくなってしまうと思う。また、ちびっこ広場は子どもだけでなくお年寄りも憩える場として、もっと使いやすくしてほしい。以上、小さい子からお年寄りまでもが使えるような公園にしてほしいと考えるが、いかがか。

建設課長：ちびっこ広場は平成元年（1989年）の30年前に整備した公園。これまで、大型遊具や電柱を取り換える等、また平成29年（2017年）には清潔で利用しやすい洋式トイレを設置するために、大規模な改修をするなど利用者が、公園で楽しんでいただけるよう整備を進めてきた。議員から質問のあった、小さな子が安全に遊べる公園づくりだが、一つの考えとして、小さな子が遊ぶ場所と小学生以上の子が遊ぶ場所を公園内で分けるという方法がある。小さな子供用の遊具を新たに設置したり、今ある遊具を移動したり、遊び場の安全確保ができないか検討していきたい。また、お年寄りにも利用していただきたいので、これから検討していきたい。現在、公園づくりの専門家をお願いしてちびっこ広場の再生計画を作っている最中で、今年の冬までには計画ができる予定。今年のような暑い夏に、水遊びができるような施設ができないか、また議員から提案のあった小さな子供からお年寄りが楽しめる公園づくりを進めていく。

クリナ議長：質問について再質問はあるか。

蓮音議員：ありません。

林副町長：先ほど菊地教育長からもあったように、私も陸上競技をやっていた。そんな風に見えないかもしれないが、でも頑張ってやっていた。みなさんも頑張ろう。小さな子供からお年寄りまで楽しめる公園づくりを進めたいという事で、高瀬課長から嬉しい回答があった。今、再整備計画を立てているがみなさんの意見が聞きたいので、友達と話し合ったり、この後の子ども議会の会議の中でもまとまったりしたら、ぜひ役場に教えていただければ参考になる。

クリナ議長：よろしいか。

蓮音議員：よろしいです。ご回答ありがとうございました。

(5) ニセコ小学校5年 日向美月 「雪を利用した誰でも遊べる場所づくりについて」

日向議員：私は冬に雪を使って遊べる場所がほしいと考える。冬は公園など遊べる場所が少なく友達と遊ぶ機会が少なくなるので困っている。ですので、雪を利用して、いつでも誰でも来てすべられる場所を作ってほしい。例えば、スキーのコースをいくつか（難易度が違うコース）作り、チューブすべりや雪合戦ができる場所を整備するなど雪で集える場所があったらよいと思う。冬は遊べる場所が少なく、外で遊ぶ機会が減り家でごろごろしがちである。いつでも行けて遊べる場所があれば、元気になるし、運動もできて体力もつく。

幼児センター長：幼児センターの冬の遊び場を紹介する。一か所目は桜が丘の散歩道で、春はカタクリ・エゾエンゴサク等花が咲く散歩道で、冬は尻滑りを楽しんでいる。そこは坂が急なため、シート等を使わずウェアだけでスピード感を楽しめるコース。二か所目は、散歩道の上で、幼児センターの裏側で石碑が立っているところ。そこも散歩道程の坂ではないが、丁度よい坂があり、コースが完成するまではビニールシートで滑る。三か所目は、幼児センター前の道を真っすぐ進んで、奥の左側に昔の桜が丘スキー場がある。40年以上前に、小学校のスキーの授業やスキーの大会に使われていた。ここは2つの坂よりも長いコースでソリが滑れて、リフトはないが以前スキー場として利用していたので、スキーを楽しむ事ができる坂である。この他に、ちびっこ広場にできる坂を利用して尻滑りをしたり、本通り団地からヘリポートにかけての裏の坂で遊んだりしている。今紹介したところは、幼児センターで遊んでいる主な場所だが、これらの場所は誰でも利用できる。しかし、滑って道路に出てしまう場所では遊ばないことや、スピードが出過ぎてしまう所では注意して遊ぶ、また木の周りにはぬかるみやすいので、それらのことを十分注意して楽しんで頂きたい。外遊びすることは、とても大切で良いことである。まずは今ある場所で、日向議員の友達を誘って雪遊びを楽しんで、体力をつけてください。

保健福祉課長：私のほうからも一部回答する。今質問があった、冬の遊び場については、幼児センター長のほうから説明があった通りである。また、スキーコースなどの場所の整備についてであるが、現在のところニセコ町の子ども子育て支援計画の中でも新しい施設を作る予定はない。またこのような施設を整備するには多くのお金がかかる。ニセコ町では、近藤小学校の体育館などの施設の整備については優先順位をつけて進めているところである。まずは、皆さんも今ある遊び場を有効活用し、また近所のおじいちゃん、おばあちゃんに昔はどこで遊んでいたかを聞いてみてはいかがか。新たな遊び方が、もしかしたら発見できるかもしれない。町でもこうした遊び場ができるような検討を、今後していきたいと思うので、理解のほどよろしくお願ひしたい。

クリナ議長：質問について再質問はあるか。

日向議員：ありません。

菊地教育長：日向議員ご質問ありがとうございます。冬の遊び場を作ってほしいという要望は、以前もいろんな方から言われたことがあり、やはり特に今、町内の中でここが冬の遊び場だというものがない。みなさんが要望されているものなのかと思って受け止めている。私たちの頃は、やはりこういう雪国にあって、考えてみると自分の家の周りが全部遊び場だった。外へ出て雪合戦をしたりかまくらを作ったり、昔はもっともっと雪が多かったのか、屋根にくっつくくらい雪が積もったので、屋根から滑って遊んだり、もちろんスキーもちょっとした坂で滑ったりして、子供ながらに工夫してみんなで遊んだ記憶がある。それはみなさんも変わらないと思う。ただ車が、昔よりはずっと増えてきているのももちろん道路に出るようなところでは遊べないというのは当然だと思う。安全な場所を見つけて遊んでもらいたいと思う。冬で見かけるのは、ニセコ小学校のグラウンドなんかはものすごく広くて、途中で業者の人が山を作ってくれる。学童の子どもたちもよくニセコ小学校の斜面を利用してそり滑りをしたり、遊んだり、皆さんも休み時間とか外に出て遊んでいる様子を見て、とっても良いと思っているので、身近なところで安全に遊べる場所を自分たちで見つけ、工夫した遊びをすることもぜひ考えてもらいたいと思う。

林副町長：今菊地教育長のほうから答弁があった。実は私も日向美月議員の質問を聞いて私も小さいころを思い出した。教育長と私は年齢が一つ違いなので、多分大体同じような遊びをしていたのかと思っている。冬は友達とみんなで考えて、自分たちでボブスレーのようなコースを作ったことを懐かしく思い出した。教育長の回答と同じでだが、冬は家の中ばかりいると、健康上よくないのでぜひスキーもそうだが、危ない場所にはいかない、道路に出るような尻滑りをしないようなことをみんなで考えて、新しい遊び場、新しい遊びをまたみんなで考えてほしい。

クリナ議長：よろしいですか。

日向議員：はい。ご回答ありがとうございました。

(10分間休憩 議長・副議長の交代)

(6) ニセコ小学校6年 コンスタンティンさゆりクリナ

「子どもたちがみんなで参加できるイベントや企画について」

クリナ議員：過去の質問で「ニセコ町には、たくさんの自然がある」と言っていた。しかし、小学校3年生以上になると、生活科がなくなり、自然とふれ合える機会が少ないので、私は、子どもたちがみんなで参加できるようなイベントや企画を行ってほしいと思う。具体的にどのような企画を考えたかという点、私は地域の人や子どもたちが一緒に自然とふれ合える、森の中でのスタンプラリーを提案する。

町民学習係長：教育委員会では今年度小学校5・6年生を対象として、ふるさとニセコの自然の中で、普段体験することができない野外活動などを、地域の人たちの協力を得ながら体験することで様々な知識と知恵を得るとともにふるさとを知る機会となり、またチャレンジする大切さを学ぶということを目的として、ニセコチャレンジ、子どもの自然体験授業というものを行っている。応募により13名の児童が参加している。具体的な活動として、5月18日に「木工体験」、6月10日に「Pure体験・サイクリング」、7月20日に「羊蹄山一周サイクリング」、8月17日に「羊蹄山登山」、9月7日の「着衣水泳体験」、10月5日の「火起こし体験」など、計6回の体験メニューを計画している。すでに木工体験やサイクリングは終了しているが、参加者のみなさんには、仲間と目標を成し遂げる楽しみを実感していただいている。また、この体験活動を通して物事の仕組み原理や準備、段取りの大切さなどを学ぶことを柱としている。この度のニセコチャレンジの結果などを踏まえて、コンスタンティン さゆりクリナ議員のご意見も参考にしていきたい、多くの皆さんが楽しみながらふるさとニセコの自然に触れ合えることのできる企画を考えていきたいと思っている。

田中副議長：質問について再質問はあるか。

クリナ議員：ありません。

菊地教育長：さゆりクリナ議員の提案の地域や子供たちが一緒に自然と触れ合える、森の中のスタンプラリーは、大変すばらしい提案だと思う。今の町民学習係長が答えたように、この意見を参考にしながら、今後の体験活動の中でこのスタンプラリーのようなものを取り入れていきたいと思っている。ぜひまた活動があった時には参加してもらいたいと思う。教育委員会でもこのニセコの自然や環境を生かした、色々な体験を小学生・中学生に味わってもらいたいという考えをもっており、先ほど係長が説明したように、今年はニセコチャレンジという13名の子どもたちが参加する活動に取り組んでいる。もっともっと広げられたら良いと思っているので、来年はさらに工夫していきたいと思っている。その他にも今コミュニティスクールといって、地域の人たちが学校の活動や、あるいは学校外の活動で子供たちを応援する仕組みを作っているため、今年度は実は9月にニセコ登山を小学生のみなさんに募集をして地域の人たちも一緒に登ってもらおうという企画もある。それから小学校4年生を対象に10月にはラフティングの清流下りを実施する。そのように地域の人に関わって、みなさんと一緒にニセコの自

然、環境を一緒に楽しめるように活動をこれからも取り入れていきたいと思っている。なお、一般のお母さん方が考えた企画だが、来週この自然の中で野外授業ということを取り組む。私もその様子をぜひ見たいと思っている。そのようなことを今後取り入れられたらと考えているので、さゆりクリナ議員の提案を受けて、自然を生かした体験活動をこれからも広げたり、充実したりしていきたいと思っているので、よろしくお願い致したい。

田中副議長：よろしいか。

クリナ議員：はい。ご回答ありがとうございました。

(7) ニセコ中学校2年 倉地圭亮 「デマンドバスの台数増車について」

倉地議員：家から学校まで距離があるため、学校が休みの日に部活に来るときには、デマンドバス（にこっとバス）を利用している。ただ、冬は混んでいて予約が取れないことが多くある。予約が取れないときには、親に送ってもらうが親も仕事が忙しいので困っている。冬の時期だけ台数を増やせば、混むことも解消されると思う。

企画環境課長：議員のご指摘の通り特に冬には、にこっとバスを利用して、スキー場へ行く人が増えるために、これまでにこっとバスの予約が取りにくいという状況があった。そこで2年前の冬から、にこっとバスの予約を取りやすくするために、にこっとバスとは別に、市街地とスキー場だけを結ぶ新たなスキーバスを試験的に運行し、スキー場へ行く人をこのバスに誘導することで、にこっとバスの予約を取りやすくするという試験を行った。その結果にこっとバスの乗車人数は増えるとともに、予約をお断りする件数（にこっとバスについては予約したがいっぱいだと断る件数がある）その予約を断る件数が徐々に減るという傾向が出てきている。このスキーバスは、今年の冬からさらに増便をして、運行する予定をしているので、スキー場方面に行く人たちにスキーバスを利用してもらうことによって、にこっとバスをより多くの方が利用できるようになると考えているところである。また今年5月から福井地区という町内会のみなさんが、自分たちの車を使って町内会同士の人たちが送迎しあう助け合い交通をはじめている。この取り組みも徐々に増えているので、にこっとバスにも良い影響が出てくると考えている。なお、にこっとバスを増やすためには、年間概ね一千万円ほどさらにお金がかかる。またニセコは観光客の増加などで働く人が不足していて、特に季節限定でにこっとバスを運転する人を探すということも働く人を探すということも、とても難しい状況。このため今まで話したような様々な方法を組み合わせた解決策を行っているというところである。なお、にこっとバスは通常のバスとは異なり、同じくらいの時間帯に同じ方面へ行くお客さんと乗り合いをする仕組みとなっている。希望の時間に多少余裕をもって予約も取りやすくなり、より多くの方が利用できるのでは、ぜひ今後の利用の際には心がけていただければと思う。今回はご質問ありがとうございました。これから倉地議員達、みなさまから良いアイデアをいただけたらと思うのでよろしくお願い致したい。

田中副議長：質問について再質問はあるか。

倉地議員：あります。デマントバスの運行時間を少しだけ長くしてほしい。

企画環境課長：結論からいうと、長くするということについては検討させていただきたいと思う。ただ、このデマンドバスがスタートした時に、いろんな話し合いをした。公共交通という中に、このデマンドバスが入るが、公共交通を新たに作るとかという時にはいろんな既存の会社さんと、きちんと話ししなければいけないルールとなっている。例えば他のバス会社さんですとか、タクシーの会社さんですとかニセコだけじゃなくて周りにいる様々な公共交通の会社さんとお話しして了解をとるといような手続きを、法律で必要となってくるので、ニセコ町がただ時間を延ばしますと簡単に言えることでもない。そういうみなさんと話し合いも続けなければならないが、バスの時間を延ばすということを検討するということができると思うので、そのようなことはご意見として承っておきたいと思う。

副議長：よろしいですか。

倉地議員：よろしいです。

林副町長：まさに提案の鋭い再質問を含めてありがとうございます。このデマンドバスの問題は本当の議会の中でも色々と質問があり、いろんな検討をしているところである。今回答弁した山本課長もいろんな方策、やり方をどんどん考えているが、まだまだいろんな検案事項、考えなければいけないことがあり、検討が必要である。今日、倉地議員から質問があったことを参考にしながら、色々と考えていきたいと思うので、どうか見守っていただければと思う。

田中副議長：よろしいか。

倉地議員：よろしいです。ご回答ありがとうございます。

(8) 近藤小学校6年 松田莉埜 「招魂祭の屋台を増やしてほしい」

松田議員：招魂祭では、だんだんお店が少なくなってきた、とても寂しくなっている。お祭りはとても楽しく、みんなとつどえて、友達と遊べるととても楽しい行事のひとつ。屋台が増えると、にぎわいが増しとても楽しい。食べ物だけでなく、くじや金魚すくいなどもあるともっと盛り上がると思う。このようなお祭りがなくならないように、屋台を増やしてほしいと考える。

保健福祉課長：本日3回目の答弁となる。一般質問を受けとてもうれしく思っている。はじめに、招魂祭について少しお話する。ニセコ小学校の近くにある忠魂碑は日ロ戦争に従軍して戦死や病死した英霊を奉仕するために、大正4年6月に建立されたものである。そこで行われていた当時の招魂祭だが、村を挙げての年中行事として、特に余興として

行われる剣道などの競技は大変盛況で、夕方からは映画会も催しされていたようである。現在では、7月20日に戦没者に対する追悼式を、町民センターで行っており、この日程に合わせて19日と20日の二日間、役場前の路上で屋台が出店されているというところである。そこで問題の招魂祭で屋台を増やしてほしいということだが、最近の状況では、去年は10軒、今年は8軒の屋台ということで、確かに寂しい状況にはなってきた。昭和50年頃には50軒近い屋台が並んでおり、また小学校のグラウンドの端にはステージが生まれ、そこで演芸や歌謡ショーなども行われ、大変にぎわっていたとのこと。今回招魂祭に毎年屋台をやっている方へ話を伺う機会があった。聞いたところによると、数年前までは、北海道内でこのような屋台で商売されている方が1200軒ということだったが、現在では800軒程度に減っているということ。またこの道内では商売で6月から9月の約4か月間で、1年間の多くの儲け（収入）を稼がなきゃいけないということで、できるだけ人が多く集まるお祭りに出店する屋台が多いということで、残念ながらニセコではあまりこの屋台では儲けにつながっていないということのようであった。では、お祭りが無くならないようにどうしたらよいか。松田さんも友達や学校の先生とか、保護者と相談して屋台を出してみたらよいと思う。とってお祭りが盛り上がるのではないかと思います。町としても屋台の方にできるだけ出店してもらえるように引き続きお願いしていきたいと思っている。

田中副議長：質問について再質問はあるか。

松田議員：ありません。

林副町長：質問ありがとうございました。私も小さい頃は出店に行くのがとっても楽しみであった。招魂祭は矢橋商店から忠魂碑の階段のところまで両側にずらっとお店が並んでいた。今回、答弁があったように、小学校のグラウンドにはステージを立てて、歌謡ショーなどをやっていた。それは昔の話だが、先生方とお店を出してみたいか。なかなかむずかしいとは思いますが。昔は、町でも地元の商店の方が、何件か集まってお店を出しており、今でも倶知安の金毘羅寺のお祭りでは地元の方も出しているようで、商工会でも、考えられるのではないかと思います。回答があったように盛り上げていくためにどのような方法があるのか、来年に向けて色々と考えていきたいと思う。

副議長：よろしいですか。

松田議員：はい。ご回答ありがとうございました

(9) ニセコ小学校4年 レフコ アメリ礼奈

「自転車ロードと、クロカンロードの新設について」

アメリ議員：夏には自転車で走れるロードを設置し、冬にはその道をクロカンロードとして使用できるロードを作ったらいいと思う。私は家族で自転車に乗ることがある。ニセコ町には木がいっぱい生えている。その中を通ったら気持ちがいい。自転車とクロカンができる道を作り観光地と町をつなげたらいいと思う。貸し出しの自転車を用意すること

で、観光客の人にもニセコのロードを走り、自然を感じてもらったと思う。私なりに道を考えてみた。自転車ロードを作ることで健康になり、エネルギーを使わない分環境にやさしいと思う。冬は自転車ロードをクロカンロードとして活用し、クロカン教室としても使用できるのではないかと思う。自転車ロードを作るのに、木を切ったならその木を橋に利用したい。

商工観光課参事：ニセコ町とその周辺の町では自転車のイベントやレースがとても盛んである。今年の7月にはニセコクラシックという自転車レースが開催され倶知安町、共和町、蘭越町、ニセコ町にまたがるコースを約1500人が走った。また、ニセコ町を訪れた人が気軽に自転車を楽しめるように、JRニセコ駅ではグリーンバイク+（プラス）というモーター付きの自転車も貸し出している。レフコアメリカ礼奈議員が提案したように、自転車は健康にもなり、環境にやさしい乗り物である。自転車の速度は大体時速15kmくらいで、車の移動では見過ごしてしまうような植物や昆虫、鳥などにも出会え、とても良い提案だと思う。また、林や森の中を走れば気持ちもリフレッシュするので本当に良いと思う。これまでも、ニセコ町では周辺の町と連携して様々な自転車コースを検討して、パンフレット等に載せてきた。例えば、こちらに北海道ニセコサイクリングマップというのがある。後ほど礼奈議員にもお渡しする。この中には、ニセコの歴史を感じて走る、「ニセコの駅周辺ぐるりコース」、ニセコアンヌプリを見上げて駆け上がる「ニセコヒルクライム周遊コース」など紹介している。レフコ議員の夏は自転車で、冬はクロスカントリースキーができるコースというアイデアは今までにない新しい発想である。これまでもニセコ町は夏場スキー場の活用ということで、スキー場と一緒に協議をしてきた。今後も、このような場所がないかという検討していきたいと思う。先ほど私なりにコースを考えてみたと言っていたので、ぜひどんなコースがいいか具体的なコースをぜひ教えていただきたいと思っている。その際は地図を広げて、スタートからゴールまでどのくらいの時間がかかるのか、もし長い時間走るのであれば途中でトイレ休憩できる場所はあるかなど、色々と調べてもらえたらとてもありがたい。もしコースの下見をする機会があれば、ぜひ友達や家族と一緒にコースを歩いたり自転車で走ったりしてみると、もっと新しい発見もあると思うので、引き続きよろしく願いしたい。

田中副議長：質問について再質問はあるか。

アメリカ議員：あります。学校まで、自転車やクロカンで行くのはどうかと考えた。先生に付いてもらわないといけませんが、自転車やクロカンで行くと健康になれるからよいと考えた。

菊地教育長：私に経験はないが、昔の人は、冬にスキーで学校に通っていたという話を聞いたことがある。私よりもっともっと昔のことだが、車の交通の便があまり良くなかったときに夏は畑だったところをクロカンのスキーで、スキーを履いて学校に行くと聞いていたので、なるほどと、確かにそういうことで体力もつくしスキーの練習にもなったのではないかと思う。今再質問でもあった、自転車やクロカンでの登校については、今は行ってない。車の交通量の問題や交通安全の面で行っていないということだが、スクールバスが今走っている。そういうことで現在は通学には使っていないという状

況。交通安全面を考えて、これは理解していただきたいと思う。これからもみなさんの安全面を第一に考えて、これからも考えて参りたい。先ほど提案があった自転車コースや、それをクロカンコースの活用は安全なところで整備ができれば良いと思っていますので、ご理解していただきたいと思う。

林副町長：質問ありがとうございました。今はウォーキングやランニングは、今日質問があった自転車を愛好する人とともに、とても増えてきている。先ほど回答の中でサイクリングマップがあると話しましたが、サイクリングマップがあるのを知っていたか。ちょっと宣伝が足りないのかもしれない。その辺みんなにニセコにこんなサイクリングロードや、いろんなことが設定されているということがわかるようにしていきたいと思っている。自転車、観光を進める上でも、とっても有望なことで、すぐできること、ちょっと時間がかかるがやらなきゃいけないことを、少し分けしながら進めていきたいと思うのでよろしくをお願いします。

田中副議長：よろしいか。

アメリ議員：はい。ご回答ありがとうございました。

(10) ニセコ中学校2年 勝野悠楽 「町の花、木のPRについて」

勝野議員：私は、昨年も子ども議会議員を務めていた。その中で、その他の議員が町の花・鳥・木のPRについて提案していた。そこで、私は改めてどういう方法だと色々な人（老人・子ども・若者）に町の花や木が伝わるか考えた。それは町の花や木を使った食べ物を作ることによって、PRする方法である。ニセコにはおいしい食べ物を作っているところがたくさんある。そういったお店とコラボして花（ラベンダー）を使ったスイーツを作ったり、町の木はそのスイーツを入れるお皿やスプーンにしたりすると良いと思う。そして、それをお祭り限定にして売ると、招魂祭や狩太神社の屋台不足も解決できると思う。たくさんの方が食べてくれば、お金もたまり、新しい店が増えるかもしれない。また、子どもと一緒に作れたら楽しいし、そのスイーツが名物になると思う。

商工観光課参事：昨年子ども議会で質問があった内容と重複するが、町の花・鳥・木はニセコ町のイメージを伝えるようにということで制定されたものである。昭和54年に町の木ということで白樺が町のシンボルと定められた。それから町の花ラベンダーと町の鳥アカゲラは平成3年に行われた開基90周年の事業で定められたもの。町の鳥アカゲラは平成4年にニッキーとしてキャラクター化され、みんなに愛されている。このシンボルやキャラクターは町が作る印刷物や地域を紹介する冊子、商品のパッケージ、チラシなどに使われている。多くの人に町の鳥や花や木を知ってもらうためには、議員が言うように、スイーツとコラボとしてそれらを入れるお皿やスプーンなんかその木で作ればということで、とても良いアイデアだと思う。これまでも、ニセコ町ではお酒や農産物など様々な商品開発を進めている。商品開発にはマーケットインという考え方があり、これは商品を作るときに会社が作りたいものを作るのではなく、

みなさんたちのように商品を買う側の意見を取り入れて商品づくりを行うという考え方。スイーツを買うのは子供も立派な買い手ですから、子どもが本当に食べたいと思うような、例えばラベンダーを使ったスイーツを開発すれば、人気商品が生まれるかもしれない。ぜひ夏休みの間に町内のお店を食べ歩いてコラボしたいというお店があれば、お店の人に聞いてみればよいと思う。将来自分の企画を持ち込んで商品開発に携わる機会が生まれるかもしれない。やはり先ほどコラボしたいという意見があったが、自分の目で町内を見てまわって町の人と話すことがあれば、その第一歩となるのでぜひチャンスがあればやってみてほしい。

田中副議長：質問について再質問はあるか。

勝野議員：あります。高校などは昨年PRの取り組みをしていると聞いていたが、あそぶっくや他のところもラベンダーなどを配るようなことをしているか。役場全体がする事は、あまり聞かなく、先ほどパッケージにしていたりというのは聞いたが、それ以外にニッキー以外にもやっていることはあるか。

林副町長：今の再質問ありがとうございます。ラベンダーの取り組みはあまり町全体としてはできていないと、私も少し思う。それで、2021年にニセコ町は開基120周年を迎える。先ほど90周年で決まったものもあるという答弁もあったが、ニセコ町の花とか木・鳥について、再度きちんと町民のみなさんで認識することがとても必要だと思う。そしてラベンダーをどうやって増やしていくのかというと、今ニセコ高校もそのことを一つの検討課題として、高校生が色々なラベンダーの株を作り役場の前に植えてくれて、色々な取り組みをしているので、ぜひみんなで町の花として取り組みを進めていきたいなと思っている。それと、勝野さんの質問で食にターゲットを置いた質問をいただいてとってもありがたいと思う。ニセコに観光に来る方も、ニセコに来ておいしい食べ物を食べたいという気持ちが、多分非常に大きいと思う。その中でニセコのものを使った、ニセコのアイディアのものを食べていただくということは、とっても大切なこと。なので今後の参考としていただきたいと思います。

田中副議長：よろしいですか。

勝野議員：はい。

菊地教育長：私からも補足をさせていただきたいと思う。勝野議員ご質問ありがとうございました。昨年も小林議員のほうから町の木・鳥・花のPRということで出されていて、みなさん方にとって、とても関心が大きいのだと思っている。先ほど高校生のお話があったので、高校生のことについて少し触れますが、非常にこのニセコ高校はラベンダー、町の花であるということをしごく意識して、色々な研究をしている。昨年みなさんに紹介したように、「ラベンダールームスプレー」を作って、今年は種類を増やして、それを商品にしているという取り組みをしている。実験的に昨年はちょっとした食べ物、スイーツにもラベンダーの味をつけたものを作り、色々なラベンダーの開発研究をし

ているところです。今年もプロジェクト活動はニセコ高校生が日ごろの学習を活動に取り組んで、成果を発表する場が12月にまたあります。ラベンダーの新しい活動・研究にどう取り組んでいるかという様子を、高校生が発表すると思うので、もしタイミングがあればそれも聞いてもらいたいと思う。役場のほうも、町の木・花・鳥をどんどんうまくマッチさせたPRができればと思っているし、みなさんにもお渡しした名刺の中に木と花と鳥を入れているので、色々なところでそういう紹介やPRをしていきたいと思う。皆さん方のアイデアをどんどん出していただければと思う。あと一つ、白樺樹液を知っているか。白樺樹液もいろんな商品になっているので、ニセコの木が白樺なので、そういうものにもこれから可能性があるのではないかと思う。楽しみにしてほしい。

田中副議長：よろしいですか。

勝野議員：はい。役場はとても忙しいので、一つのことをだけではなくたくさんのことがあるので、一つのことを考えるのは忙しいですが、色々考えてくれているのを知ってとてもうれしく思いました。回答ありがとうございました。

田中副議長：以上をもって子ども議会の一般質問はすべて終了いたしました。閉会宣言の前に町長から発言を求められていますので、これを許します。

片山町長：みなさんたくさん質問を本当にありがとうございます。

田中美月議員からは学校用のカバンについて質問があった。これまで教科書の重さに着目していたのを、カバンというキーワードで質問いただいたので、とても新しいヒントでうれしく思う。ニセコ町は山岳リゾートのイメージがあって、今アウトドアの用品メーカーともお付き合いがある。将来、民間の会社とコラボして、ニセコオリジナルの通学カバンができたというヒントをもらうことができた。

それから小林美夕議員からは高齢化問題が出されました。ニセコ町も高齢者の皆様が安心して住むことができるよう頑張っているが、先ほど課長が回答したとおり、特別養護老人ホームの拡張を含めて検討している。最近の傾向としては、自分一人で身の回りのことはできるが、朝・昼・晩の食事を自分で作るのが大変だという人がだんだん増えている。こうした皆さんが、安心して住むことができるように、食事を提供されるような、みんなでそういう人々のお手伝いをするような施設も必要になってきている。

大道ひなた議員からは、陸上グラウンドについて提案があった。今ニセコの子どもたちが、陸上協議大会などで大変頑張っている。今後とも、施設を少しずつ直しながら、子供たちが元気に陸上ができるように配慮していきたい。

そして、コンスタンティン連音チェザル議員からのちびっ子広場への意見があった。今高瀬課長からただ今回回答したとおり新しい計画を作っている。以前にニセコ小学校の校庭にブランコなどを作ったのだが、その施設が「ニセコ町まちづくり基本条例」のシンポジウム（会合）を開催した時に、小学生から、「子供の意見を聞いていないじゃないか」という意見が出た。ぜひ、ちびっ子広場では、はみなさんの意見をぶつけてほしい。

日向美月さんから、雪を利用してということで、たしかに、冬場天気が悪い時には、なかなか遊ぶところがなくて困っていると思う。北海道のオホーツク方面の市町村では、木を使って冬場も遊べ、子供たちがみんな体を鍛えるなど、冬場の屋内アスレチック施設を造っている町が増えている。ニセコ町もたくさん森林に囲まれているので、地元の木を使ってそういうものができたらよいと思う。将来に向けて、プールも通年通して利用できるような検討をしていきたいと思う。

それからコンスタンティンさゆりクリナさんから、子供たちみんなで参加できるイベントをもっと増やしたらという意見に対して、先ほど教育委員会からもいっぱい色々なことをやっているという話があった。みなさんで広く宣伝をして、みんなが利用しやすいように、さらに町として応援していきたいなあと思っている。これから森の学校だとか自然をたくさん活用したいろんな教育ができないかなということで教育委員会とも相談をしている。

倉地圭亮議員からデマンドバスについて話があった。ニセコは今「環境モデル都市」の指定を国から受け、温室効果ガスである二酸化炭素の排出量をなるべく少なくしようと計画を進めている。このままいくと2℃ほど世界中で気温が上がってしまう。それを1.5℃以下にしないと私たちが暮らしていくのが大変という時代になっている。だからニセコ町も全体で努力し、将来的には、デマンドバスもEV電動化するなど、できるだけ全体の交通体系を考え、環境への影響が少なくなるような町にしていきたい。

松田莉壱議員から招魂祭の屋台についての話があった。招魂祭は、戦争で犠牲になった人方をみんなで慰霊して、戦争の悲劇をみんなで忘れない日にしようということで、ニセコ町では「戦没者追悼式」を開催している。一番世界中でみんなが願っていることは平和だと思う。いまだに、世界中で悲しい戦争が起こっている。だからみんなで戦争の起こらない平和な世界にしたい。また、そういうことを考える場として「招魂祭」という日があるので、ぜひそのこともちょっと考えていただけるとうれしい。意見があった、少しお祭りが寂しくならないよう工夫をするよう考えたい。

レフコアメリ礼奈さんから、自転車ロードとクロスカントリーの夏冬うまく利用したらという、とってもいい案があった。特に木を切って、もし道路を作ったらその木を利用するという話もあって、これはとっても大事なことだと思う。私たちも環境や自然を大事にするように引き続き進めていきたいと思う。それからニセコ町環境モデル都市という指定を受けているので、ぜひ学校の先生からその環境モデル都市という、ニセコが国から指定されて今やっていること、そんなこともこれから生徒のみなさんに教えてもらったらありがたいと思う。

勝野悠楽議員から町の花・鳥・木のPR、とってもいいヒントをいっぱいいただいた。食べ物を活用してすごくいいなあと思っている。町民センターの床は、木になっているが、あれは町の木の本樺の木。これから役場庁舎も造る。ここも地元の木をふんだんに使った庁舎にしようと思っている。

今日は、皆さんからたくさん建設的な意見をいただいた。猪狩議長もきっと感動しておられるのではないかなと思う。今回のこの子ども議会においても、できることがあったら、すぐ進めることが、ニセコ町の姿勢です。過去には子ども議会の意見でプールの横にも交通安全とかいろいろ看板がすぐできたと思う。また、プールが汚いとい

う意見が出され、すぐそのあとに予算化をしてプールに必要なものを整備している。今後も、どんどんみなさんがたくさん意見を町に寄せてくれたらありがたい。以上で総括的な答弁を終わらせていただく。どうもありがとうございます。

4. 閉会宣言

《開会行事》

1. 教育長講評（菊地教育長）

長い時間大変お疲れさまでした。どうでしたかみなさん。ちょっと疲れたかな。緊張するよね。それだけ真剣になって、真剣に質問して、私たちも真剣に答えています。私たちも実は疲れます。ですから今は少し緊張の糸が解けてリラックスした気分にいるかと思う。大変お疲れさまでした。この後お弁当が待っているのも楽しみにしてもらいたいと思う。今日は議場の後ろに、小学校の先生、ニセコ小学校の教頭先生、近藤小学校の校長先生、ニセコ中学校の校長先生が見えてみなさんの一生懸命な様子を聞いてくれていた。おそらく学校とは違う姿が見られたのではないかと思う。とってもみなさんが立派にいろいろな質問をしたり、回答答をしたりするのを、メモに一生懸命取り、それから再質問や再々質問を、少し私もドギマギしましたがけれども、それは何人かの議員さんからでたり、それから昨年まで出てきた質問に対して、もっとここはやっぱり違う観点から聞いてみたいというのがありました。それだけみなさんそういう問題に関心がやはり普段からあるということだと思う。それから身近な問題、自分たちのことに関わる問題も出されている。これはこの議会というのは議会体験ではなく、子ども議会町づくり基本条例に従った正式な議会なので、私たちはみなさんの声を受け止め、今町長が講評したようにこの実現に向けて、できるかできないか検討していく場なので、このみなさんが今日出されたことも受け止めながら、これからより良い町づくり、みなさん方にとっても住みやすい町づくり、楽しい町づくりを取り組んでいきたいと思っている。実は昨日まで3日間、SDGs高校生未来会議をニセコ町で行っていた。新聞にも少し出ていて、今日の後志版にもその様子が出ている。ニセコ高校生が3名参加した。その会議は、高校生の国際未来会議と言って、SDGsというのはニセコ町が未来都市として指定されているのはご存じか。SDGsというのは英語だが、誰一人取り残さない社会の実現。これに向けて国際連合が決めた、世界的な目標17個を立て、それを実現しているという取り組み。日本にいと学校に行くのは当たり前ですよね。ところが学校に行けてない子供たちが世界にはたくさんある。ここでこんな話をするのは変だが、女性は学校に行かなくてもよいというところもある。それは日本ではありえない話。でも現実そういうところがある。そういう社会をもっともっと改善していかなければならない。そこにやはり注目して、全世界で取り組んでいこうというのがSDGsの取り組みだと私は思っている。それについて高校生が3日間、自分たちでできることは何かという視点で、グループで話し合い、昨日はその発表会があった。これは今言ったように海外全世界で取り組んでいく問題なので、海外からも高校生が来た。今回は、15名来た。そして北海道外からも10名の高校生が来た。そして北海道の高校生、先ほど言ったようにニセコ高校生も3名出場した。全部で46名の高校生が集まり、3日間そのテーマで話し合った。さて、何語で話し合ったのか。海外からも来たので、英語で話し合ったのです。英語でみんなグループの話し合いをして、英語でパワーポイントというのにまとめ、その発表も英語だった。日本の高校生もニセコ高校生もそれに加わり、そういう3日間を過ごした。もちろん日本語で補足している部分もたくさんあった。ということで、一つは、英語はやはり全世

界の人をつなげるためもあるのだと思います、今小学生でも英語を一生懸命やってもらっているので、英語で対話する力もつけてもらいたいと思うし、世界の人と、同じ世代の人と交流をしたということは本当に素晴らしい3日間だったと思うし、これから先もこの会議はニセコ町で開催する方向でいるので、ぜひみなさんこれから何年後かに高校生になった時に、参加するチャンスが生まれると思う。そこで思ったのが、今日も皆さんは身近な問題から町の問題から取り上げて考えて、どうしたらよいかという提案をしてくれた。そのSDGs高校生未来会議も同じ。実は、世界の問題に視点をあて、自分たちで考え、そして自分たちでできる提案をしてくれたということなので同じ姿だと思う。そういう意味で皆さん方も大変立派であった。そして高校生にもそういう場があり、ニセコ高校生も活躍したというのも、頭の片隅においていただければと思う。こういう経験から、みなさんどんどん可能性を広げられるものになると思うので、これからは色々と町の問題、自分たちの身近な問題を取り上げ、早速カバンの問題も出たので、中学校のなかでもどんどん話題にして先生方とも相談して行ってほしいと思う。まず今回、議員に2回目という議員さんもいた、それからはじめての議員さんもいましたが、積極的にこのように応募してくれて、取り組んでくれたこと感謝をする。そしてこの経験を生かして、また学校も、日常生活も頑張ってもらいたいと思う。今日は大変お疲れさまでした。ありがとうございました。終わります。

2. 町長挨拶（片山町長）

みなさんお疲れさまでした。とても楽しい時間を過ごすことができました。ニセコ町実は、ニセコ町まちづくり基本条例というのをみなさん見ていると思いますが、これは日本で初めて市町村地方自治体という組織で、日本で初めてできた私たちの町の憲法です。今まで日本の社会はこういうものは地方自治体ではなかったのを色々な法律の専門家や、町民のみなさんの英知を結集して作ったものが、私たちの町の、町の憲法ニセコ町まちづくり基本条例です。この中で当時、日本ではまだあまり議論されていない子供の権利条約をどう入れ込むかという議論があったり、様々なわりと高度な法律の専門の人達も入った、議論がなされて2年半ぐらいかかりできたもの。それからみなさんが生まれるだいぶ前だが、25年ほど前からニセコ町のこの環境をどうするという議論をずっとやってきた。それで2001年に私たちはダム開発をさせない町にしようということを当時決意した。そのキーワードは水だった。私たちは水を守ろう、水を守るということは、川を守り、森を守り、そして私たちの暮らし、体の弱い小さな赤ちゃんを守るという物語を、みんなの知恵で作った。そのことがあるので、ニセコ町は景観条例があり、それから水資源、水を湧いている水源地を勝手に開発できない、日本の法律は規制がないが、ニセコ町は独自で決めている。私たちはこれまでずっとそういうことを住民のみなさんと一緒に知恵を出し合いながら、この豊かな環境を、将来あなた方を含めて将来の子供たちにつなげるためにどうしたらよいかということをやってきた。その中の一つとして、国から環境モデル都市という指定を受けて、二酸化炭素は、地球をダメにする一つの要素をなくそうという活動をし、それから海洋プラスチックの汚染が今世界中大変である。私たちの町からそういう海洋汚染につながるようなプラスチックを出さない暮らしぶり、そういうものをどうするかという議論をしっかりと始めていきたいと思っている。そんな中で、先ほど教育長からあったSDGs未来都市と指定都市として国から最初にニセコ町が受けた。みんなで助け合う町をどう作るかということである。私たちが大事なことは、困った人、本当にそこに苦しんでいる人がいたらいかにみんなで助けて、みんなで仲良く暮らすかということ。ぜひ機会があったら有島記念館に行ってもらいたい。記念館に相互扶

助という言葉がある。それはお互いを尊重し、みんなで助け合う社会をどう作ろうということ。ニセコはそういう相互扶助、それからSDGs未来都市、あるいは環境モデル都市になっている町。みんなの力を合わせて、この環境を将来につなげていこうと決意した町である。みなさんはそこの子供たちだという誇りを持ってこれからみんなで楽しく暮らしていってもらえればいいと思っている。そして意見があったら、どんどん言った方がいいと思う。やっぱりみんなが意見を言い合って、そのことを尊重しあう町であること。いい点が違ったからと言って相手を攻撃しあうのではなく、その意見も大事だと言いながらみんなで考える、そういうことが大事である。ぜひまた皆さんが元気で体を鍛え遊んで、そして勉強をしてくれることを期待して挨拶としたいと思います。子ども議会に参加いただいて本当にありがとうございます。終わります。

3. 記念撮影